	質問（10/13まで）	回答
①	・管理職そして全教職員が同じベクトルで動くためのポイントを話題にしてもらいたい。 ・職員の意思統一、マインドセットで苦労されたところ、工夫された点があれば、教えていただきたい。	・一番大切にしたことは、「ゴール・目的の共有」です。具体的には、 ①毎月の校長だよりを通して、全教職員が経営方針や研究の目的・ゴールを共有しました。 ②研究部だけでなく、PT（プロジェクトチーム）を編制することで教職員全体で研究に携わるような組織編制を行いました。検討事項があれば、適宜管理職と PT 主任が連携して、共通理解を図りました。 ③年間2回の自己申告の授業では、全教職員が自己調整力を高めるための工夫を取り入れた授業を行いました。また、指導略案に自己調整力を高めるための工夫やポイントを入れるようにしました。また、その授業を合同学年（低・中・高 2 学年）で見合うことで、互いに授業力を高め合えるようにしました。 ④体育科を切り口にすることで、教職員がゴールイメージをもちやすく、他教科へ広げることができるようにしました。 ⑤4月の保護者会で研究開発学校の学校グランドデザインを配布し、保護者にも本校の研究について丁寧に説明を行いました。
②	・授業時数を 45 分から 40 分へ短縮することに伴い、各教科における学習内容の確実な履修に影響が生じないか。 ・教科書の内容を十分に扱う時間、演習問題に取り組む時間、学習内容を振り返り理解を深める時間などが不足し、児童に学習内容を十分に理解・定着させることが難しくなるといった課題は生じないか。	・学力調査の結果から40分授業においても学力は保障されていることが分かりました。むしろ学力は向上しており、「学びのサイクル」が授業改善でも生かされていることが分かりました。(リーフレット P7参照) ・授業のリデザインを行ったことで、習熟が必要な単元は時間数を増やすなど、柔軟に取り組んでいます。（リーフレット参照 P2参照）
③	・高学年の国語や社会は内容が多く、45 分授業でも終わるのに必死にやるという印象ですが、指導の際に工夫していることがあれば教えてほしいです。 ・40分授業で時間内に終わるようにするための工夫点や困難な点、留意事項があれば教えていただきたいです。 ・また、運動会、水泳指導、音楽会などは、45 分授業から 40 分授業に移行された時に、何か変更したり、工夫したりしたことがあれば教えてほしいです。	・授業のリデザインを行いました。教科の特質を踏まえ、児童に身に付けさせたい資質・能力を重点化することで年間指導計画や単元計画、授業展開を見直し、40分授業に適した教育課程へ再構成しました。（リーフレット参照 P2参照） ・4月当初に各教科でオリエンテーションを行い、学習の進め方を児童とともに確認しました。児童が見通しをもって学習に取り組むことで、結果的に時間短縮につながりました。 ・行事時数を見直し、設定された時間数をオーバーすることなく、その時間数の中で指導できるように教職員で共通理解を図りました。
④	・1 コマ 40 分授業での午前中 5 時間という日課による、率直なメリットとデメリット、をお聞きしたいです。子どもの成長にどのような変化が見られたか、教員の勤務や授業の質などにどのような変化が見られたか、など特に知りたいです。 ・本校も午前 5 時間制を約 20 年間実施しています。午前 5 時間制のメリット、デメリットと 40 分授業実施するうえで各教員の指導力向上等、課題が多岐にわたってあるのではないかと推測します。研究発表から学ばせていただければと思います。	・生み出された時間のメリット・デメリット 【メリット】 学校の強みと課題を改めて見つめ直し、生み出した時間に学校の特色を反映させることができます。何より児童はすぐに順応し、生み出した時間を主体的に取り組む姿が見られています。また、教員からも「月・金曜に会議がないため、教材研究の時間がたくさんあることで、自信をもって児童の前に立つことができる」という声がありました。（リーフレット参照 P1・2参照） 【デメリット】 図工科や家庭科などの2時間続きの教科の時間割が設定しにくかったです。そのため、日ごろから各学級担任と連携をし、早めに計画をしたり、放課後の「チーム大岡山タイム」を使って調整したりして、時数を確保しています。例えば、先日の運動会の練習のときは、練習や専科の授業の合間を見つけ、1 時間ずつ週2時間確保しました。体育は同じ学年で続けて指導できるよう時間割を設定することで準備や後片付けの時間を短縮させ、児童の運動時間を確保しました。
⑤	・生み出された時間での、児童、教師のメリット面と今後、学校の実態によって内容を変えていくのか。変えていくとすれば、学校のどの組織(研究推進部?)が中心となって行っていくかを教えていただけますと幸いでございます。	・④と同様 ・PT（プロジェクトチーム）を中心に、定期的に内容の改善を図っています。（PT の時間を2か月に1回設定）
⑥	・ゆめおびタイムやチーム大岡山タイムの成果や課題を聞けることを楽しみにしています。 ・ゆめおびタイムの設定の意図と、成果と課題点を教えていただきたい。現状課題があるのなら、どのような改善の見通しを持たれているのかお聞きしたい。	・研究発表当日の「ポスターセッション」で成果と課題については説明いたします。 ・20分の自己選択学習の時間だと短いと感じている児童もいますが、計画表を作成することで、短い時間の中でも見通しをもって進めることができる児童が増えてきています。（リーフレット P5参照）

⑦	貴校の『チーム大岡山タイム』の実践について、本校でも今後全校での取り組みを進めていくにあたり、貴校の『チーム大岡山タイム』の昨年度までの取り組みがあれば実践成果や、年間を通じた具体的な進め方（カリキュラムやスケジューリング）について関心を持っております。 また、この『チーム大岡山タイム』に加えて、どのような校内研修や学びの機会を設定されているのか、差し支えない範囲でご教示いただけますと幸いです。	・研究のプロジェクトチーム＝PT を立ち上げ、それぞれの PT に全教員が所属するようにました。研究部に任せっきりにするのではなく、教職員一人一人が「自分ごととして」研究に携わるように組織編制を行い2か月に1回程度、話し合う場を設定しています。昨年度までの『チーム大岡山タイム』の取組の実践については、本校HPの「研究開発学校としての取組」のページやリーフレットP1・2で紹介していますので、ご覧ください。 ・昨年度は、授業研究以外にも年間4回、校内研修で講師の先生をお招きし、「学習方略」や「探究」をテーマに、児童の自己調整力を育成するための手立てを教師が学ぶ機会を設定し、授業や自己選択学習の時間の指導に生かしています。
⑧	生み出した時間の活用方法や各学年の授業時数をどのようにカウントされているかなど、具体的に教えていただけたらありがたいです。教員に裁量のある時間の取り方についてもどのようにされているのか具体的に教えていただきたいです。よろしくお願いします。	・目黒区研究開発学校では、学校教育法施行規則第51条の規定によらず、1単位時間40分を1コマとしています。1単位時間5分間を集めて、「生み出した時間」としています。この生み出した時間は第4学年から第6学年では、1年間で 5,075分、40分のコマ数で表すと127コマに相当します。この「生み出した時間」を学校独自の教育課程に位置付けて活用していくことで、各学校において児童の実態に応じたカリキュラム・マネジメントの実現が可能となります。詳しくは、本校 HP 上にある目黒区教育委員会「40分午前5時間制」パンフレット P4 を参照してください。(リーフレット P1参照)また、本校の生み出した時間の活用方法は、リーフレットP1・2・5・6をご覧ください。
⑨	自己選択学習の時間をどのようにして決めたのか？完全に児童に任せているのか、ある程度縛りがあるのか？	・自己選択学習の時間は、自分の思いや願いを実現せるために、自分で学習課題を選択し、学びを調整しながら深めることを目的としています。そのため、どのように学習するかは児童に委ねています。4月にオリエンテーションを行い、どのように学習をしていくか（すすめ方・場所・人・学習資料・方法）を提示し、見とおしをもたせています。内容は、学習系、ものづくり系、生活実践系、体育・運動系・芸術系等多岐にわたっています。特に縛りはありませんが、安全面に気を付けて行うことを指導しています。（リーフレット P5・6参照）
⑩	子どもたちが回すサイクルについて、教師がどのようにサポートすればよいか学びたいと考えています。	・自己選択学習の時間だけでなく、様々な場面で「学びのサイクル」を意識して過ごしています。（リーフレット P3・4参照） ・学習方略の「明示的な指導」は、「この場面で、こんな工夫が使えるね。使ってみよう。」とはっきりと教えることです。どんな学び方がよいのか、子供自身が判断できるように、具体的に価値付けを行うことが大切だと考えています。
⑪	自己調整学習を進める際に、学習環境面で工夫している点（いつでもどこでもだれとでも学べる環境づくり等）があれば教えていただきたいです。（当日の参観で見えない部分での工夫）	「自己調整力」を高めるための学習環境面での工夫（教師の手立て）は、使用する言葉の統一（「学びのサイクル」「まなびーポイント」）と声掛け例の共有があります。「自己選択学習の時間」においては、課題に合わせて教室外の場所（体育館、音楽室、理科室など）を使用できるようにしています。
⑫	朝の始業が早くなることによって、子どもたちは遅刻の人数が増えたりはしないのでしょうか。また働く保護者が多い中、早く授業が終えることについては何か意見があったりするのか教えて頂けたらと思います。	・45分授業のときと比較して、遅刻の人数は増えていません。保護者会や学校だよりで保護者に周知し、協力を求めるとともに、生活目標で「時間を守る」ことを特に意識付けして、取り組んでいる成果だと言えます。早く授業が終わることについては、これまで保護者からの否定的な意見はほとんどありません。むしろ令和7年度よりスタートした目黒区の事業「ランラン広場」（小学校の校庭や体育館、特別教室等を活用し、放課後や夏休みに専任の運営職員の見守りの中で、自主遊び（校庭遊びやボードゲーム、工作活動等）や自主学習（学習や読書等）を行うことのできる安全・安心な居場所を提供する事業）で遊べるなど好意的に受け止めてくださる保護者が多いように思います。
⑬	・1 番苦労した点とやり甲斐について知りたい。 ・保護者にはどのような説明をしたのか？ ・40分授業導入について、教職員の理解、保護者や地域への説明、その他、事前に根回し等、気を遣われたこと。	・1年目はまず教職員も児童も時程や40分授業に慣れるところからスタートしました。最初は戸惑いもありましたが、徐々に慣れてきました。何より児童の方が早く順応し、生み出した時間を楽しみにする姿が見られ、学習面だけでなく、生活面においてもよい変化が見られるようになりました。そういった日々の児童の成長した姿にやり甲斐を感じています。 ・前年度から保護者や地域に学校だよりや PTA 定例会、学校評議員会、住区会議等で繰り返し伝えておき、4月の保護者会で校長から学校グランドデザインをもとに丁寧に説明しています。（目黒区教育委員会「40分午前5時間制」リーフレット P22・23を参照） ・前年度から保護者や地域に繰り返し伝えておき、4月の保護者会で校長からグランドデザインをもとに丁寧に説明しました。（目黒区教育委員会「40分午前5時間制」リーフレット P22・23を参照）
⑭	・教育委員会とは、どのような連携をしているか。 ・中学校との連携はどのようにしているか。	・教育委員会主催の「研究担当者会議」で、区としての方針を共通理解したり、各校での実践例を共有したりしています。また、指導主事に来校してもらい、「自己調整」などの具体例等についてこうない研修を実施した。 ・目黒区の中学校も R7より50分授業から45分授業にシフトしました。生み出した時間をどのように活用しているかを小・中連携の日（年間3回）に、教職員全体で共有を図る機会を設けています。
⑮	・研究に取り組むにあたり、事前の準備等 ・カリキュラムを編成するにあたり、支援の必要な子どもたちへの手立てについて	・目黒区の考え方について教育委員会と連携し、4月当初に40分授業午前5時間制について全教職員で共通理解を図りました。また、R5までの区内の先行研究を参考にして、本校の研究をつくりあげてきました。 ・生み出した時間は支援を要する児童にも大きな効果があります。「自己選択学習の時間」では、支援を必要とする児童が、生き生きと活動する姿が見られています。また「マイプラン」で1週間の時間割を事前に示すことで、見通しをもって過ごすことができています。